

<指導の実際>

①教育データの活用について(○成果)

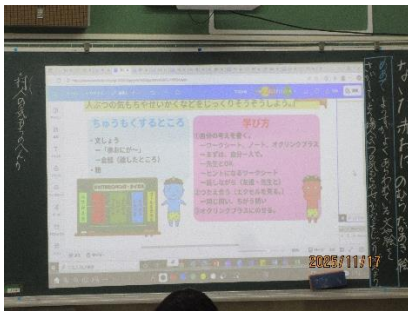
活用したデータ資料・・・自作アンケート、スクールダッシュボード、ScTN

○自作アンケートでは、担任が知りたい情報を得ることができ、かつ予想以上に不得手を感じている児童が多かったので手立ての必要感が高まった。

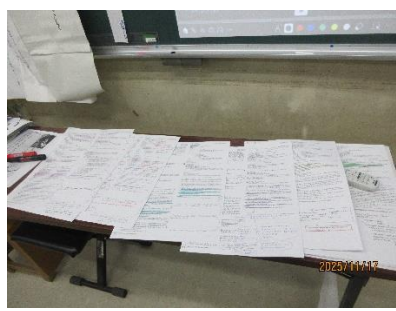
○スクールダッシュボードは、数値を相対的に見て分析を行った。これまでの蓄積が大切であり、少ない人数ではあるがいい加減にとっている児童もいることが明らかになった。日々の学びメーターの入力時、確認や声掛けが必要である。

○ScTN からは、日頃の見取りから基礎基本の定着のための指導支援が必要と感じられる児童以外に、自分から学習を調整することや他者と協働することについて不安を感じている児童を見取ることができた。より一層、個々に必要とされる指導支援が違うことが分かり、一日の中や単元の中で誰にどのように指導支援を行っていくか計画をもつ大切さを実感した。

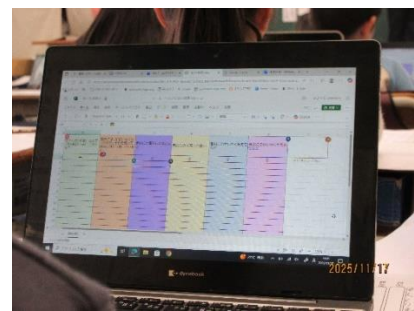
②指導と評価の手だての効果と課題、児童の反応



手立て⑩学習の手引きの作成
児童と計画した単元計画や1単位時間の進め方をCanvaで示したことで、児童は本活動の目的を明確にし、個々が学習の仕方を選択して進める姿が多く見られた。



手立て⑥ワークシートの活用
出されるテーマを予想し、それぞれのテーマ別、段階別に、読み取りのポイントやキーワード、また見本となる書き出しを入れたワークシートを用意した。読み取りに自信のない児童は、本ワークシートを用いたことで、次第に自分自身の言葉で書き記したり、書き加えたりする姿が見られ、効果の有効性が明らかになった。



手立て③対話する場の設定と喚起
自分が追究したいテーマを選んで、共有したExcelに氏名を入力するようにしたことで、早速自分と同テーマの友達と意見交換をする姿が見られた。

<協議会>

授業者の意図・反省

- ・内容について、「ないた赤おに」を学習するとなったときに、「きつねのおきゃくさま」で学習したことが生かせる授業であり、年間通した積み重ねにより本授業を展開することができた。
- ・はじめは、子どもたちからの感想がなかなか出なかった。そのため、初読の感想から用意した短冊を用いて展開した。

- ・ ScTN で子どもたちのつまづいているところが発見できた。
- ・ 初めての個人での探求学習のため、やり方の説明の時間が長くなった。

研究協議(○成果)

- 「書く・発表することへの苦手意識」という実態を、全国学力調査等のデータからの確に把握していた。授業アンケートやエクセル入力によって児童一人一人の課題や学び方が可視化されていた。
- 低学年でも学び方を選択する経験を積ませている点が勉強になった。
- 「言葉による見方・考え方」を意識した授業構成で、言葉の意味・使い方・関係に目を向ける学びが見られた。
- 児童の感想を次の授業づくりに生かしており、意欲の連続性が生まれていた。
- 文の構成テンプレートやモデル提示が、書くこと・話すことへの安心感につながっていた。
- 「活動が目的化しない」指導の重要性を再確認する研究授業であった。

今後に生かしたい点

- ・ 子どもの言葉で「問い」を立てること。
- ・ ICT は使うことが目的ではなく、学びを支える道具として精選すること。
- ・ 自力で進めない児童への補充・支援の仕組みづくりを行っていくこと。

指導講評

教育研究所 主任指導主事 橋本 貴大 先生

- 指導案を見て、教材研究をすごくよくやっているのが分かる。指導案内容も、ブラッシュアップしていくうちにどんどんパワーアップしていた。論文に書いてあることも生かしていて素晴らしい。
- 国語は、「子どもたちにどんな資質能力をつけさせたいか」のゴールから考える。
- 思考力・判断力・表現力の目標を身に付けさせるために、「読むこと」の指導事項を確認する。1・2年生では、「登場人物の行動を想像する」とある。低年生は、登場人物の行動から気持ちを想像し感想をもつことが大切である。
- 資質能力をつけさせるために、教材を使う。教科書で教える。「教科書『を』教える」ではない。
- 単元計画については、2次が大切である。2次で自分で気持ちを想像することができることが重要。3次では、みんなが違う物語を読んでいる。2次で学んだことを、個々が生かす時間になる。
- 探求については、1つの行動について考えると気持ちを想像しやすい。また、細かい描写の部分から気持ちを想像してもよい。
- 本時は、聞く活動が長かったので、間に簡単な活動が入ると子どもたち同士で活動が活発になる。例えば、「何でコツンとうったんだろうね。隣の人と話してごらん。」などと発問するとよい。
- 今日の授業は、どの層の子ども向けだったか。少しレベルが高かったが、できた子たちを価値付けしてあげるとよい。
- タイピングは早く始めることに越したことはないので、学校としても進んでやってほしい。

教育研究所 主任指導主事 吉野山 慎 先生

- 美園南中の研究発表について
- R—PDCAサイクルのデータ活用。データを分析して、子どもの実態を把握して何をしたらよいか手立てを考えることが大切。

- 授業アンケート、生成AIを活用して子どもたちの指導に生かせる。スクールダッシュボードから見えた実態を Copilot で分析することはできるが、Copilot の使い方には注意が必要。生成AIは教師の分析の補助なのですべてを鵜呑みにしない。元データを見返すことも必要。データと自分の見取り双方を大切にしたい。
- 授業アンケートで同じ回答ばかりしている子に声を掛けることで、データの変容のきっかけになることも考えられる。
- 教科担任制でもスクールダッシュボードは児童理解で活用できる。
- データで表せるところと表せないところがあるので、念頭に置きながら使っていく。
- 生成AIを使って教師の感想などの内容の要約などは便利。